

氏 名 : 鎌野 育代
専攻分野の名称 : 博士 (教育学)
学位記番号 : 博甲第 255 号
学位授与年月日 : 平成 27 年 3 月 17 日
学位授与の要件 : 学位規則第 4 条第 1 項該当 課程博士
学位論文名 : 中学校家庭科における保育・家族学習の授業と生徒の学び
— 家庭科における「人との関係性」の育成の視点から —
論文審査委員 : (主査) 教授 伊藤 葉子
(副査) 教授 中澤 潤 教授 河村 美穂
教授 倉持 清美 准教授 中山 節子

学位論文要旨

現在、日本では子どもに限らず大人にあっても、人間関係の希薄化は問題視されている。この今日的な問題に対し、家庭科教育においても、子どもの人間関係の力を育成することは重要な課題であると考えられる。本研究は中学校家庭科の保育・家族の授業における人間関係に関する生徒の学びについて、「人との関係性」という概念を用いて探求するものである。さらに複雑な要素が絡み合う授業という営みにおける生徒の学びを紐解くために、ケアリング理論を援用した。

本研究は、7 章より構成される。

第 1 章では、本研究で用いる「人との関係性」の定義づけをするとともに、研究目的・方法について述べた。家庭科教育における人間関係に関する研究知見を概観し、「人との関係性」を自己と他者との間の認識と相互作用における行為と定義づけた。本研究の目的は、中学校家庭科の保育・家族学習における保育体験学習とロール・プレイングに焦点化し、その活動の中で生徒が「人との関係性」をどのように育成するのかを明らかにすることである。この目的を明らかにするために、質的データと量的データから分析する Mixed method アプローチを採用した。なお、この「人との関係性」とケアリング理論との関係を概観するとともに、「人との関係性」を育成するための視点を明らかにした。

第 2 章では、中学生の「人との関係性」という視点からの発達段階を捉えるために、小・中・高・大学生を対象とした質問紙調査と焦点化された設問に関する面接調査から分析を試みた。その結果、中学生の「人との関係性」の特徴としては、小学校での家族との親和関係や地域社会への親和的態度が一変し、家族への反発が強くなること、閉鎖的な人間関係の中で過ごしていることを指摘した。

第 3 章では、中学校保育・家族学習におけるロール・プレイングにおける生徒の学びを捉えるために松村康平が創始した人間関係学のかかわりの原理を援用し、作成した分類枠組を用いて、学習後の自由記述を分類、分析し考察した。ここでは、保育学習においては 1 回のロール・プレイング、家族学習においては 2 回のロール・プレイング学習後の生徒の自由記述をデータとして考察した。かかわりの原理に基づき、考察するとともに第 4 章のロール・プレイングの実践にむ

けての視点を示した。

第4章では、第3章のロール・プレイングに関する知見を生かした家族学習を実践し、学習後の自由記述をデータとして、M-GTAによりロール・プレイングによる中学生の「人との関係性」の変容プロセスについて考察した。対象の生徒は、中学校の2年生に在籍した2クラスの生徒で、19個の概念と9個のサブカテゴリーを生成し、3つの段階を捉えた。ロール・プレイングに取り組むことで、「中学生が他者になりきり実感する」段階から「自己と他者の客体化」から「無理のないかかわりを見出す」段階に至る過程とこれに影響する要素について考察した。

第5章では、保育体験学習と「人との関係性」の育成との関係を検討するために、中学生の幼児へのイメージと自己効力感の変化を指標として、中学校3年生を対象に一年間の保育学習に取り組んだ生徒への質問紙調査をもとに考察した。幼児へのイメージの変化については、中学生は保育体験学習を通して幼児へのプラスのイメージを大きくしていること、「幼児への関心を高める」という目標の具現化のためには、「幼児への受け入れやすさ」のイメージを高めることとの関連性が示唆された。保育学習と自己効力感との関係、保育体験学習と幼児への親和や保育学習への興味・関心との関係について考察した。

第6章では、3回の保育体験学習を実施した生徒を対象とするインタビュー調査を実施し、M-GTAにより、考察した。16個の概念と3つの段階を捉えることができた。中学生が幼児とかかわる中で、「戸惑いながら幼児の世界に入る」段階から、「幼児からのアプローチを意味づけ見方が変わる」段階、そして「持続可能なかかわりを見出す」段階に至る3つの過程を捉え考察した。

第7章の総括的考察では、これまでの研究知見をふまえ、中学校家庭科の保育・家族学習における「人との関係性」の育成とは、他者の気持ちを感じる（情緒）から、自己と他者の客体化（認識）へと発展し、新たなかかわりを生み出す（行為）という段階をもつことを指摘した。また保育・家族学習における「人との関係性」育成の方向性を見出すために、本研究が援用したケアリング理論が「人との関係性」の育成の一部において、反映することのできる理論であることを指摘した。本研究により新しく生み出された知見は、保育・家族学習において「人との関係性」を授業という営みを通して育成していく上での指標として、家庭科教育に資するものとする。